

# 自蹊庵便り

平成三十年 師走

NO 135

師走に心寄する思いとは

今年も残すところあと僅かになりました。

師走になりますと以前には感じることもなかったことが過ぎるようになったのに気づかされます。それは、師走も秒読み段階だなあ：と、暦とにらめっこをしていますと、あゝ、人生も秒読み：。カウントダウン人生のここちがしてくることで。

多くのことは出来なくなりました。「雨ニモマケズ、風ニモマケズ」ではないけれど、お声がかかれば、あつちにうろうろ、こっちにおろおろの日々の明け暮れの一年にございました。

喜んで頂けることもあれば、心至らずお人の心を傷つけ、悲しませてしまうことも多々あります。七十五歳という<sup>よわい</sup>齢に至ってもです。千回以上同じことをやり続けてきても：です。

先月の京都教室の折、茶事の働きに入る前に、大徳寺瑞峯院の独座庭にて、ご参加くださる皆様と共に前田昌道御老師お導きの許、坐禅の機会を得ました。深い呼吸を

し続けていくことで、見えてくることもあらず。力がつくこともあるはず。そんな漠然とした信念だけで這いずり廻っており

すれば体が調い、体が調えば心調い、心調えば顔が調うとの御言葉、まさに天声の如く尊い御言葉を賜りました。恵み多き一年一年を賜り、千回以上も茶事に明け暮れており、冥利に尽きる晩年にございます。ですが：、なぜか心晴れやらぬここちは何処から<sup>あ</sup>生れいずるものであろうか：と。きつと人々の中に吾が身を晒しながら育てて頂く道を選択した人生でありながらも、遅々として未だ成長を見ず、欠点多き我が身、

老いに入り逝く早さと、心働きの成長とはどうも矛盾しているようでございます。その差隔たるばかりですが、それでも悩むことそれもったいなく、今日一日生かされているといふ奇跡の事実の一日を十分に生きることに撒することにいたしましたようか：。難しいことは解りませんが、解りやすい場所での努力はしやすいもの、また一年、また一年という重みをさらりと捨てての新年迎えにございます。

埋めがたき日々故の憂いにございましょう。

カウントダウン人生、さらりさらりと余

悩む前に体を動かし働く、吾が身の小ささをより小さくしない手立てとして、落ち込まず前を向いて体を動かす。悩まず動か

分を捨てながら、身軽く歩む残生でありますように、願わくば、どんな小さな事もお人を傷つけることがありませんように：。

七十五歳から八十歳までの五年は、この二つを目標といたしましたしでしょうか…。

あゝ、そう、そう、今年はシンガポールにて初めての海外茶事出張がございました。

それでは少しばかりミニシンガポール紀行を…。

あゝ、楽しくも悩ましきシンガポールかな。

七十五歳になってこのような贅沢な時間のプレゼントがあることなど、想像もつかないことになりました。

お人に添い、御縁に添い、あるがままに一瞬一瞬の生かさされようを楽しませて頂くことにいたしておりますが、この度のシンガポールでの歓迎ぶりは面映ゆいほどの至れり尽くせりの誠実さになりました。振る舞い、お持て成しというものの原点を逆に学んでまいりました。

日本とは違い、多種多様な民族の集まりゆえか、アイコンタクト、表情の豊かさ、気遣い、ハグ等々、すべてにおいて行き届

き、プロフェッショナルで、お人を招くということの洗練された姿を、お一人お一人から学ばせて頂きました。脱帽です。

文化の違い、国民性の違いがあるとしても、それらを超越したところの人間性、感受性、心を惜しまぬ、労力を惜しまぬ、そのすべてを学んでまいりました。本来は茶事というお持て成しの文化を引っ提げて、日本のお持て成しを楽しんで頂くために行ったシンガポールでしたが、持て成すという洗練さにおいて、彼の国の人達は、見事にございました。

時の国、時の人達、若者達が夢を持てる国なのでございましょう。お客様方は皆様お若く、第一線でご活躍の方々ばかり、故に御多忙さも想像を超えたところにありましよう。さりながら、一週間の滞在中の日程の細やかな配慮、二日間の三十名の茶事当日には、お一人お一人の皆様と充分に親しくなれるように優食会が昼夜用意されているという、行き届いた計画とその誠実さ、

エネルギーは、きつとこの先、これ以上見ることはないと思えるほど見事なものにございました。

すべてが善意にあふれた中でのこと、悩むことさえもつたいないほどの心地にございましたが、連日三十度越えの暑さと湿度の中、食材を求めるも十分な冷蔵庫のスペースなく、一般の人々が入りできない場所ということでキッチンや会場となる場所の情報が皆無であったこと、これには余り悩みを持たない私ですが、さすがにちよつと不安もよぎり、荷物が税関でギリギリまで足留めされていることにも戸惑い、駄目であれば洋皿でいきましょうか…と云われたときは返事に窮し、ぎりぎりまで諦めることなく、ベストを尽くすという戦いの現場でもありました。(編集子注…茶事の会場は日本で云えば迎賓館に当たるような場所だそうで、一般人は立ち入りができず、警備は厳しく、大勢の食事を作るような設備のない所だったようです)

仕事というもの、置かれた条件の中でベストは尽くすものと常々思ってはおりますが、荷造りに並々ならぬ苦労と時間を費やし、シンガポールにはそれらの荷は二十三日に着いているのが判つていながら、使えなければ、料理はともかく、茶道具はいかんともしがたく、さすがの私も、これは待つていては駄目だと判断し、何が何でも荷を取りに行き、交渉して持つてきてほしい

：と強くお願いをしたり、未だかつてないアクシデント続きの現場での茶事懐石、インタビューや現地の報道の撮影などが間に度々入り、充分な仕事の時間が取れずじまいという悩ましき、きつと日本料理という、懐石の手間仕事や器の準備等々、外食文化の現地の人々には想像のつかないことなのかもしれませんね。まさに未知との遭遇、冒険に満ちた茶事行脚にございました。

はてさて来年はどのような年が待っているのでしょうか。老いに入りゆくカウントダウン人生、毎日が未知との遭遇にござい

ます。老い重ねるも日々の恵みの中にあつてこそ、どなたさまも恵み豊かな年重ねでありますよう、心よりお祈り申し上げます。今年も多くの方々の御縁を賜り、お世話になりました。ありがとうございました。

平成も今年で終わります。二〇一九年はどんな年号が用意されているのでございましょう。世界の人々の平和、人類の今を受け持つ私達、次世代、そして未来へ続く只今の受け持ちどころ、地球に優しい、お人に優しい恵み豊かな新年でありますよう、心より願つてやみません。

皆様の御多幸をお祈り申し上げつつ、本年の筆を留め置きます。多謝！平成三〇年 師走吉日

~~~~~  
御礼の御挨拶  
この度、十二月一日〜五日まで開催された不昧公二〇〇年祭記念二人展には、出雲焼楽山窯十二代長岡空郷氏、布志名焼雲善

窯九代土屋空善氏、お二人共全日拙庵に御滞在くださつての、この上ない贅沢な展示会にございました。

皆々様に充分な御案内もままならない中、師走にも関わらず、御来庵賜り、会を盛り上げてくださいました皆様、厚く御礼申し上げます。

師走吉日  
先生方、そして会を盛り上げてくださつた皆様、厚く御礼申し上げます。

鶴の茶寮 亭主 半澤鶴子

# 茶事教室の御案内 東金教室

睦月の茶事（初釜）

一月十三日（第二日曜）

一月十四日（第二月曜）

一月十五日（第三火曜） 研究科

席入り 正午～午後四時終了

点前担当者、水屋実習者 午前九時

八時半に大網駅にお迎えに上がっております。

会費 一万一千円（レギュラー者）

一万三千円（単発参加者）

如月の茶事（暁）

二月 十日（第二日曜） 昼間

二月十一日（第二月曜） 昼間

二月十二日（第二火曜） 早朝

席入り

十、十一日は正午

十二日は午前五時

点前担当者、水屋実習者

十、十一日は午前九時

十二日は午前四時

大網駅にお迎え

十、十一日 午前八時半

十二日は前日午後九時

会費 一万円（レギュラー者）

一万二千元（単発参加者）

十二日のみ小燈料二千元追加です

※十二日は午前五時席入ですので、

電車の方は前日からの宿泊を

お勧めします。大網駅への迎えは

十一日午後九時

宿泊場所は、ゲストハウス。

料金は、二千元

午前三時 起床

午前四時～午前五時 水屋実習

午前八時 終了

○連日研修者は、翌日は五千円参加です。

一月の京都教室の詳細

大徳寺 瑞峯院 余慶庵

一月十九日（土） 準備

一月二十日（日） 実習九時～

茶事 十二時～四時

翌日準備 四時～五時

一月二十一日（月） 二十日に同じ

一月二十二日（火） 残り福点心の会

優食会 正午～二時半

片付 三時～五時

点心の会のみ参加者 一万円

連日参加者 五千円

一月二十三日（水） 朝の一服・片付

朝の一服会 午前六時～八時

掃除 午前九時～十一時 解散

無料（一服会のみ参加者三千円）

宿泊施設にて、二十日～二十二日午後七時半～午後九時に利休会記を読み解く会を予定しております。（無料）

京都教室の御案内

大徳寺 瑞峯院 余慶庵

平成三一年は、奇数月の第一日曜に続く、月・火の三日間です。一月のみ、第三週に行います。

初釜 正午

一月二十日(第三日曜)  
一月二十一日(第三月曜)  
一月二十二日(第三火曜)

雛の茶事 正午

三月三日(第一日曜)  
三月四日(第一月曜)  
三月五日(第一火曜)

端午の茶事 正午

五月三日(第一日曜)  
五月四日(第一月曜)  
五月五日(第一火曜)

七夕の茶事 タざり

席入 五時〜八時半終了

七月七日(第一日曜)  
七月八日(第二月曜)  
七月九日(第二火曜)

重陽の茶事 正午

九月一日(第一日曜)  
九月二日(第一月曜)  
九月三日(第一火曜)

口切りの茶事(実壺) 正午

十一月三日(第一日曜)  
十一月四日(第一月曜)  
十一月五日(第一火曜)

会費 二万円(レギュラー)

二万三千元

(年三回以上参加の方)  
二万五千元(単発参加)

なお、夜会、口切りについては、小灯料二千元、実壺料三千元を加算いたします。

※連日参加者の会費について、一日分は正規の会費、他の日は一日五千円の研修費、宿泊者は一日五千円の宿泊費を申し受けます。

宿泊場所

コンドミニアムイルヤ

(075178113567)

NHK文化センター講演

東京 青山教室

平成三十一年一月三十一日(木)

午後一時半～午後三時

九州 熊本教室

平成三十一年二月二十七日(水)

午後一時半～午後三時

九州 福岡教室

平成三十一年二月二十八日(金)

午後一時～午後二時半

湯河原教室 口悦会

一月二十七日(第四日曜)

旬の食材を馳走に!

一月二十八日(第四月曜)

利休会記再現料理

※二月より、第三日曜に続く、

日・月の二日間です。

利休会記を読み解く会

※東京会場は、一月より目黒の羅漢寺に移ります。

一月二十六日(第四土曜)

午前十時から正午

一服と昼食込みの場合

午後一時半まで

会費 三千元(会のみ)

五千元(昼食・一服)

※要予約です。

申込は、鶴の茶寮まで

ファクス又は、半澤携帯に

ファクス 0475-54-2518

携帯 090-9001-1134

交通案内

目黒駅よりタクシーが便利

です。

ワンメーターで行きます。